

広 報 = 180号

なかつえ

人口と世帯

11月30日現在
()内は前月比
人口 2,202(+1)
男 1,066(+2)
女 1,136(-1)
世帯数 587(-1)

■ 発行所・編集発行人・中津江村・斉藤隆一

印刷・日田・朝日堂



(写真は西日本新聞社提供)

11月19日、日田郡駅伝競走がおこなわれた。上津江村から天瀬町までの45.1kmで健脚を競いあい、中津江村は前半ふるわなかったものの、後半もりかえし、大山町についで2位となりました。これで3年連続2位、今一步で優勝をのがしています。

走らねば追い越される、追い越されないためにも走らねばならない。かって駅伝競走は人生の縮図をみるようだと語った人がいました。楽に走るのなら誰でもできる、一生懸命に走ってこそ人生だと。

一方、楽しみながらおこなう走ろう会、歩こう会は現在、大変な人気を呼んでいます。生きるための健康づくりとして駅伝競走とは違うニュアンスがあります。自分自身の体力を認識した上で、おこなえばこれ以上の健康づくりはありません。みなさんためしてみてもいいかが？

<12月>

- 22日 冬至
- 25日 クリスマス
- 28日 官公庁御用納め
- 31日 大晦日

<1月>

- 1日 元旦
- 4日 官公庁御用始め
- 5日 成人式
- 8日 消防団出初式

行
事

1978
12月号

53ねん



長い長い一年間だったのか、それともアツというほどの短い一年間だったのか、人それぞれに感じていることだろうと思います。きびしい、きびしいと口ぐせのようになつて、いるこの数年間、きびしさの中からどんな光を見いだしていくのか、確かにこの1年、三千百五十三万六千秒は過ぎようとしています。そして中津江村はこんな足跡を残して、過ぎようとしているのです……。

めざす優良品 特産物加工場

一月、農産物加工施設が完成しました。たけのこ缶詰の加工から事業が開始され、本年産こんにやくから本格的加工がはじまっています。

中津江村は、地理的、気象的条件から普通作、そ菜、果樹の栽培が困難であるため、米を主作に特用農産物を副作とする複合経営農家が大部分をしめ、農業経営の主軸となっています。とくに茶、ワサビ、コンニャク、ユズのほか、シイタケ、タケノコの林産物、そ

れにワラビ、ゼンマイなどの山菜の農林産物は、水田の少ない農家の米にかわる換金作物として重要な産物で、自然食が見直されつつある現在、その需要は年々増加しています。

従来、これら特産物の流通販売の大部分は青果、根菜のまま出荷販売していましたが、市場出荷が不便であるうえに、収穫時期が異なるため早期出荷が困難で、また、輸送費、その他の割高によって販売価格がきわめて不利でした。……こうしたことを補うため施設がつくられたものです。

この施設が完成したことにより、特産物の加工および保存によって青果販売を出荷調整するとともに、産地特色の風味と加工を加えて商品価値を高め、他の産地との地域差も解

消されます。

タケノコ缶詰は予想以上の優良品が生産され、取引の商社からも好評でした。コンニャクも本年産の原料を多量に確保しているため流通販売先の開拓と優良製品の加工生産に努力しなければなりません。また、今度農産物低温貯蔵庫も完成し、原料の貯蔵と製品の保存施設が完成したので、加工事業の振興発展が期待されます。

有効な利用を……

鯛生金山跡地

明治の中頃、本村で金鉱石が発見されて鯛

生金山が誕生、昭和十年頃をピークに発展をなし、当時は東洋一を誇った金鉱山であったが、大東亜戦争勃発や金山整備令などにより事業縮小、中止、そして昭和三十一年鯛生鉱業株式会社によって再度操業を開始したものの高品位鉱が少なくなつて、ついに昭和四十六年閉山に至るまで八十有余年、金山は長い足跡を残しました。その金山が長年にわたつて利用してきた本村内の全資産、土地百九十七筆約八十ヘクタール、建物二十一棟を鯛生鉱業株式会社から昭和五十三年五月十四日、村に寄附がなされました。村は有効な跡地利用をめざしてその具体案を検討しています。さしあたって今年度中山林約五十ヘクタールを含む土地約八十ヘクタールについて、隣接所有者と立会いを行ない境界確認、標柱埋設を終了して周囲測量まで完了の予定です。金山跡地内の整備については、具体的な検討は周囲測量後の検討となりますが、今後の跡地

内整備の根幹となる金山内道路七〇〇は、現在昭和五十四年三月二十五日工期で二工区に分け昭和五十三年十一月二十四日、諫山建設と谷組が落札施工中です。もう一つ関連大事業である旧金山鉱さい堆積場の鉱害防止対策事業は、昭和五十四年度に調査設計を実施し、昭和五十五年度から昭和五十七年度までに事業実施の予定で、福岡鉱山保安監督局に要望書を提出しました。

村の振興に

竜門ダム分水

昭和四十三年八月下笠ダムが完成、まもなく、再度この中津江村に新しいダム問題がクローズアップしてきました。その懸案となつていた竜門ダム津江分水が、九月十四日大分県、熊本県、建設省と上・中津江村において合意解決しました。これは熊本県菊池台地の農業用水を大牟田、荒尾地区の工業用水確保のため、建設省が計画している竜門ダムに、計画貯水量に不足する分を津江地区から分水するということです。本村としては昭和四十六年一月、この竜門ダム計画について説明を受けて以来、建設省よりたびたび分水問題の交渉をもちかけられていたが、水は本村の緑とともに重要な資源であり、財産であるという見地と、下笠ダム建設に伴って発生したダム周辺の地すべり現象や、集団移転地栃原簡易水道改修などの問題が解決していないことから容易に同意できないと拒んできました。その後関係者との折衝の末、下笠ダムの後遺

症的問題の解決は建設省に改善を約束させ、分水の代償としては、村の振興策として、鯛生金山跡地に林業後継者の生産及び研修の場として拠点施設を県単独事業で行なうこと、県立高校ごとに実質県立なみの寄宿舎を設置すること、スーパー林道受益者賦課金の軽減を行なうこと、主要地方道八女小国線の改良及び舗装を昭和五十五年度までに完了することなど他十項目について大分県と合意ができました。また、分水条件として、分水地点を鯛生川、上津江川の合流点付近として検討し、河川環境をこれまで通り維持し、悪化させないことなど意見一致したので議会の同意を得て覚書の締結をしたものです。その後の経過について、野田地区地すべり対策は、県の責任において実施し、現在地すべり地区の拡大申請中、栃原簡易水道改修は、配水管の布設替えを終り、水源確保のための試掘を経て本ボーリング実施中です。分水計画については昭和五十三年十二月から昭和五十四年三月末までの期間に、津江分水道の地形地質踏査と取水地点周辺の地形測量を実施の予定です。大分県市町村振興資金十年間無利子貸付については昭和五十四年度借入を実施し、鯛生金山道七百坪の舗装工事、統合中学校グラウンドのナイター設備を予定し、十一月提出の公共施設整備計画で資金借入を要望中です。

完成まぢか

津江中学校

七月に津江中学校の校舎、寄宿舎の建築工



絵でみる1年間

(S 52.12.1 ~ 53.12.1)



転入 89人



転出 158人



結婚 5組



離婚 1組



出生 19人
(男8 女11)



死亡 27人
(男13 女14)



交通事故 12件



火災 1件



電話1.1戸に1台



乗用車1.4戸に1台

過去5年間の人口 (全年12月1日現在)

年度	48	49	50	51	52	53
人口	2,650	2,503	2,405	2,338	2,264	2,202
男	1,254	1,183	1,140	1,124	1,096	1,066
女	1,396	1,320	1,265	1,214	1,168	1,136
世帯数	643	619	614	609	598	587

事に着工以来、天候も良く順調に工事が進行しています。現在コンクリートの打込みが終り、十二月末には七十三%の出来高になる予定です。昭和五十四年一月より内装工事にかかり一日一日と校舎、寄宿舎らしくなり二月末には完成する予定となっています。特別教室の実習台や給食室の調理機械等の発注も終り工事の進行状況に合わせて据付けされるようになり、期待される校舎、寄宿舎の完成はまぢかになりました。

校舎建築と並行して、津江中学校の開校に必要なことも進められています。校章は日田の著名な先生に図案をお願いしていますし、校歌については大分の先生に作詞を依頼し、作曲については東京の有名な先生にお願いす

■ そのほかに

ることになっています。

育友会については鯛生、丸蔵、川辺と上津江村の川原、都留の各小学校の育友会員が新設の津江中学校では顔を合せることになるので、その調整などの話し合いがなされています。また、寄宿舎に入寮する生徒の育友会員の方々は、津江中学校寄宿舎運営協議会の準備会を開催して話し合いが行なわれ、準備会の会長に永瀬富繁氏、副会長に永瀬源似氏と上津江村の家下政子さんがなられて世話にあたられています。

津江中学校については、今後ともよろしくご協力のほどお願いいたします。

十月一日、日田郡五ヶ町村の森林組合が合併し、日田郡森林組合が新発足しました。この郡森林組合の会員数はおよそ三千百人、出資額はおよそ七千六十四万円で、全国一の森林組合が誕生したことになります。この新組合に林業のきびしい現状打破を期待したいものです。

九月から十一月にかけて、村内各小学校の百年祭がおこなわれました。地元の人たちの協力により各校とも意義ある百年祭だったと思います。児童数は年々減少しているもの、みなさんの教育熱の一端をのぞいたような気がします。

できたぞ!!

対話の場

山村地域農林漁業特別対策事業による昭和五十三年度事業で、鯛生と丸蔵に生活改善センターが建設されました。

この施設は、地域住民の要望により建設されたもので、センターは地域住民の生活の合理化、近代化、また生活環境の改善に寄与することを目的としたものです。したがって、この施設を利用する場合は、一定の基準が定められています。一口に言えば建設目的にそった利用でなければならぬということです。主な項目をあげれば、生活改善知識および技術習得に関すること。農林業の生産技術、経営近代化に関すること。地区内の各種団体の集会、冠婚葬祭、地区内の親睦、福祉増進に関すること。その他生活改善に必要なこととなっております。センターの管理責任者は村長ですが、便宜

をはかるため両センターとも地域の方から構成されたセンター使用管理運営委員会に、その権限の一部を委任します。ですから、センターを使用したい人、あるいは団体の代表者は運営委員長にその旨を申し出て、所定の手続きをして使用することになっていきます。

なお、このセンターを使用するにあたり、秩序または風紀を乱すおそれのある

ものは、個人興業および営利を目的とした事業であるとき、施設、設備を破損するおそれのあるとき、その他センター施設の目的にいちじるしくそわない場合は、使用が許可されません。さらに、使用者が故意に施設設備を破損したとき、なくしたときは、その損傷を賠償しなければなりませんのでご注意ください。

せっかく立派な施設ができましたので、このセンター設置の目的達成のため、十分に活用し、生活改善と地区内の親睦、福祉向上に活用されることを期待しています。

この貯蔵庫は、今年一月に完成した特産物加工所で加工する原料を年間加工を維持するとともに、本村の特産物、茶・シイタケ・タケノコ（缶詰）を貯蔵し、価格の安定と各種産物の商品化を推進し、農家の生産意欲と所得の向上などの効果が期待されます。

貯蔵庫は、各室に低温用エアコンが配置されており、五度からマイナス十五度までの温度が自動的に調整できるようにな

価格の安定と産物の商品化

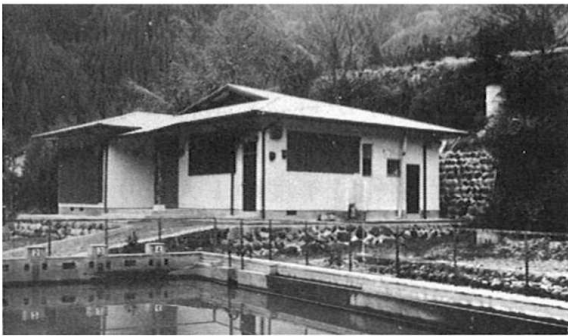
山村地域農林漁業特別対策事業の本年度事業で実施した、特産物低温貯蔵庫が総事業費二千三百五十二万九千円（建物費一千四百二十七万六千円・低温機器および防熱工事九百二十五万三千円）、一部地下室延面積二百七十一平方メートルで中津江農協事務所横に建設されました。

つていきます。

コンニャク（生イモ）、シイタケ、茶、タケノコ（缶詰）など、その産物に応じた温度で貯蔵することによって製品価値を高めると同時に、出荷調整をおこない、価格の低下を防止して有利に販売されるものと思われま

今後、この貯蔵庫、加工所を起点として、産地化を推進し、この施設を十二分に活用して、加工と貯蔵のメリットを高めることだろうと思

特産物低温貯蔵庫が完成



↑丸蔵生活改善センター



↑鯛生生活改善センター

あなたひとりの医療費 76,000円

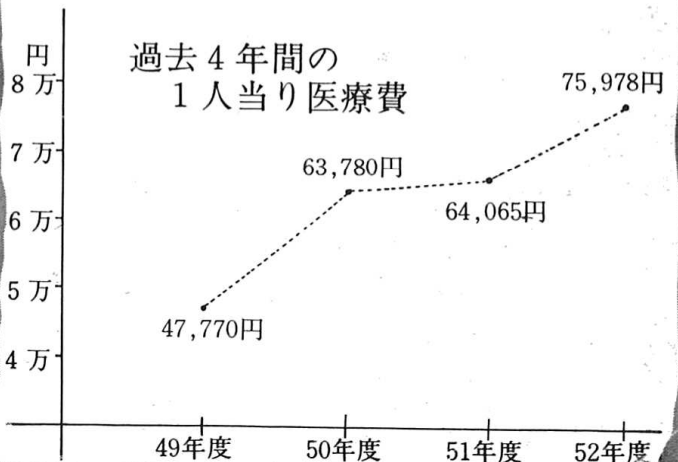
昭和52年度の本村国保被保険者医療費は、1億1千万円に達しました。これを1人当りにしてみますと、約76,000円の医療費が使われている勘定になります。特に老人(70才以上)の分として支払われた医療費は1人当り約25万円にもなります。老人医療費が村全体の国保医療費の約43%を占めているのです。国保は医療費の7割以上(国4割・村3割)を負担しているのですからごく単純に考えて、1人当りの村の保険税は年額約24,000円となります。しかし、昭和52年度の1人当り保険税は約16,000円ですから、保険財政がいかにかしいかおわかりいただけることと思います。

医療費の節減はみなさんの手で

村の保険財政が苦しくなり、運営が困難になったからといって、会社が不況で倒産するように国保事業をやめてしまうわけにはいきません。何とか手段を講じて事業を続けていかなければならないのです。

それには2つの方法があります。それは保険税の引上げか、あるいは医療費の節減です。国保財政の支出がふえ、運営が苦境に追い込まれれば、当然、保険税を引き上げて収支のバランスを図らなければなりません。その前に被保険者の方々の健康の維持増進、早期発見治療による病気の追放、さらには乱受診の自粛にご協力願いたいのです。

保険医療制度は相互扶助の精神、地域住民の連帯感が前提となって、はじめて円滑な運営が約束されます。医療費のムダ使いをなくし、国保の健全な運営を図るため、みなさん方1人1人の自覚と協力をお願いします。



ここ数年、いろいろな事情で消滅していた婦人会丸蔵支部が婦人や議員の方々などの努力によって結成され盛大に結成大会が開催されました。

結成大会は去る十一月二十六日丸蔵生活改善センターで午後一時から行なわれ婦人の方々と結成に尽力された方など約八十名ほど出席し、会場はようやく座れるような状況でした。

この大会で婦人会設立準備委員会の報告をして、その後と設立総会が開かれ、次のように役員が決定しました。(敬称略)
支部長・北村好子、副支部長・永瀬不二子、永瀬モモノ、永瀬豊子、書記会計・川内弥生、監査・長谷部ハルヨ、永瀬ウメヨ、顧問・真弓タマノ、永瀬トキヨの方で部落役員の方まで決定しました。

丸蔵婦人会が再発足

ヨロシクお願いします

思っています。しばらく活動から離れていましたので右も左もわかりません。ただ、会員の方々と十分に協力しあって、一生懸命がんばりたいと思います。これからまだまだ迷惑をおかけすることと思いますが、ご指導のほどよろしく願います。」と話していました。

この設立総会で各世帯一名必ず加入ということが了承されましたので、他の三支部よりも大きく強力な支部になるわけです。

五、六年のブランクがありまだまだ卵からかえったばかりですので、これからの活動は多少苦しいこともありますが、婦人の意識だけではなく、ご主人たちの意識も高いと思われ、地区の男性の協力が得やすいので、すぐ軌道にのり、活発な婦人会になることと思えます。

また、この丸蔵支部が立派になるよう、暖かく見守ってやりたいものです。

村のホープ



ホープ！ 期待されると
いう願いの言葉。躍動する
若いエネルギー、ここに…

鶴田部落 長谷田裕一くん

酒と将棋がすきという長谷田裕一くん。今月のホープさんは鶴田部落のユウちゃん。やさしそうでテレ屋な彼なのです。昭和二十九年生れの二十四才、現在、日田市の建設会社へつとめています。

— どう生きたい — まずは健康を大事にしたい。ボクは根っから体を使う仕事が好きだし、また、頭を使う柄じゃないし、現在の仕事と農林業を両立していければと考えています。それとそろそろ結婚をしたいのですが（冗談の中に、ちよっぴり本音かも）。

— 中津江村 — 今のままじゃ、といつても、これといった考えはもってはいない。ただ、村全体の方針というのが、みんなにいきわたっていないようだし、どうなっているのか首をかしげる。村民の人たちも見た目には無気力な感じがするし、この自然と地理的条件を考えれば、まだ発展する可能性はあると思います。可能性といつても自分たちがじつとしていられるだけで生れないでしょうが。イザ！

— 最後に — 疲れしました。あんまりむずかしいことを聞くから、でも疲れてはいけませんよ、ね、何事にも。

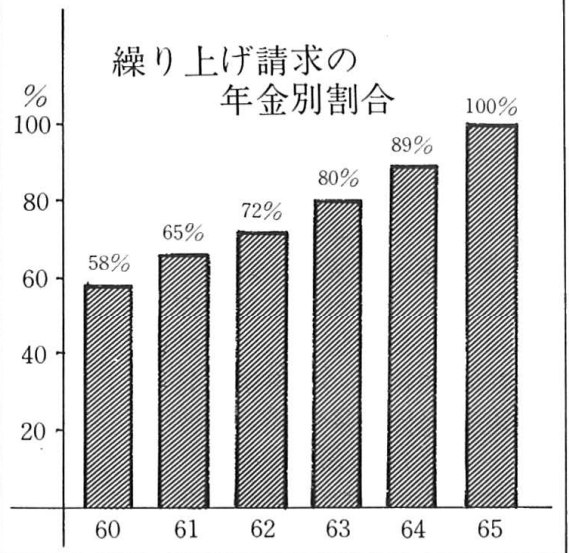
よく考えてください 老令年金の繰り上げ

国民年金の老令年金は、本人が希望すれば、60才から64才までの間なら支給開始を繰り上げてもらうことができます。

最近では、この繰り上げ請求をする人が目立って多くなりました。

しかし、ちょっと待ってください、この繰り上げ請求をすると、65才から支給を受ける場合を100%とすれば、大幅に減額されて、表のような少ない割合の年金しか受けられなくなるのです。

この繰り上げ請求によって減額された割合は、その人が65才になった後も生涯続きます。どっちが得か、よく考えてください。



家庭の療 医

乗りもの酔いを 防ぐには

〈酔う原因〉

胃腸の調子が悪い、かぜ気味、睡眠不足など、からだの調子が悪いときは特に酔いやすくなります。また、乗る直前に食べすぎたり、逆にまったく空腹だったらやはり気分は悪くなります。

酔いやすいひとは、前日から体のコンディションを整え、消化のよいものをとるよう心がけてください。

〈酔わないコツ〉

乗りもの酔いの完全な治療法は、残念ながらいまのところありません。酔いを防ぐには、結局、慣れと自信が大きくなると酔い占めます。酔い止めの薬を飲み、「自分は絶対に大丈夫」という自己暗示をかけることです。車に乗るときは、助手席に、汽車や電車は進行方向に背を向けて座るよ



うにしてください。飛行機では椅子を倒し、換気孔からの新鮮な空気を顔に当てるとよいでしょう。

〈酔ってしまったら〉

らくな姿勢をとってください。ベルト、帯、ネクタイなどをゆるめ、胸もとや腹部をらくにする。酔ってしまつてから薬を飲んでも効果はありません。吐き気がすればできるだけ吐き、うがいをしてから、外の空気を顔にあてるようにしましょう。

中津江村奨学生募集

昭和54年度の高等学校、高等専門学校奨学生を募集します。

○**応募資格**～(イ)日本国民であって中津江村内にその保護者が居住する者の子弟。(ロ)向学心に富み、人物学業ともにすぐれ、思想健全で身体強健な者。(ハ)経済的に進学、修学困難な者。

○**応募期間**～昭和54年1月16日から31日まで。

○**募集人員**～若干名

○**奨学金の額**～給付金額は月額5千円(ただし8月を除く)

○**給付期間**～昭和54年4月1日から在学する学校の修学期間の終期までとする。ただし各学年末に調査の結果、学業成績が著しく低下した場合または所得が著しく増加した場合は給付を打切ることがある。

○**応募手続**～(イ)奨学生願書 (ロ)戸籍謄本(本村に本籍のない者は住民登録謄本) (ハ)学業成績証明書 (ニ)所得証明書

○**願書提出先および問い合わせ先**～中津江村教育委員会

○**採用決定**～奨学生に採用された者には保証人を通じて通知する。

ご寄付お礼

ご家族を亡くした次の方々から、香典返しとして中津江村社会福祉協議会に金一封をいただきました。

紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

中元直様 高木加幸様 合谷須美子様 川津清睦様 長谷部シヨノ様

第50回珠算検定合格者

○**3級**…矢野未朱代、高原里美 阿部留美

○**4級**…長谷部欣一、川野明子

○**5級**…矢野能久、中元園美

○**6級**…高岡和宏、宮部丈二、水野良江、中野洋司、岩釣早苗

○**7級**…松野昌子、原部美記、大内康典、鷹野健、橋本美穂、長谷田良江

○**8級**…木川研史、梶原孝明、石鞍一美、林幸一郎、川上ひろこ

1月5日に成人式

昭和54年の成人式が1月5日(金)午前11時から役場大会議室でおこなわれます。

今年の成人式対象者は64名で昨年より11名増えています。うち実際に村内に居住している人は6名です。対象者の方はぜひご参加ください。当日の受付は10時からです。お早目においでください。

生活資金を融資します

村内の商工業に従事している従業員の方々へ、生活資金の融資をあっせんいたします。

概要は次のとおりです。

- ①事業主が商工会員であること
- ②貯蓄共済の加入者であること
- ③融資額は百万円以内
- ④融資期間は3年以内
- ⑤利息は年利8.1%(変動することもある)

なお、くわしいことは事業主・商工会におたずねください。

“世帯更生資金”

貸付制度が一部改正

中津江村社会福祉協議会では、以前から所得の低い世帯に対して、経済的自立と生活意欲の促進をはかり、1日も早く安定した生活の基礎ができるよう「世帯更正資金」の貸付事業をおこなっています。

世帯更正資金は大きく分けて、次の7種類になっています。○更正資金 ○身体障害者更正資金 ○生活資金 ○住宅資金 ○修学資金 ○療養資金 ○災害援護資金—これらの資金は、資金別に貸付限度額、償還期限等が定められていますが、今回、現在の状況等を勘案され、民生委員の承認を受けることにより、限度額の一部変更(特別貸付)ができることになりました。

くわしいことは中津江村社会福祉協議会(住民課)へおたずねください。

アブナイ!!

路面が凍ります

12月から3月にかけて路面が凍結し危険な状態になります。ドライバーのみなさん、スリップ事故は、おもわぬ大きな交通事故になります。車間距離を十分にとり、シートベルトを必ず着用し、チェーン、スパイク、スノータイヤを使用してください。また、凍結がひどい時は運転を中止することも必要です。十分に注意したいものです。

雑記

十二月二十二日は冬至。太陽が赤道から最も南に離れた南回帰線上にある日。北半球では日中時間が最も短い日とされています。この日カボチャを食べると中風にかからないとか、ユズ風呂に入るとカゼを引かないなどといわれて今でも行事として守っている家庭も少なくありません。その昔冬になって有色野菜がなくなった暮れにカボチャを食べることは確かに体のためによいことでした。むしろ生活の知恵であったのかもかもしれません。

毎年この時期になると各新聞の家庭欄におせち料理の作り方が紹介されますが、昔どおり自家製の料理を作ってはどうか。家族の何人かが皮をむいたり、鍋をかき回したりで連帯感をみつけ、皆の正月を楽しく迎えられるのではないでしょうか。おとうさんには姿が変身しては。